

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 28 日作成)

小委員会名	西洋建築史小委員会	主 査 名：星 和彦 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：後藤 治 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(1) 若手研究者の育成・強化策、発表の場の設定などについて議論、検討、実行する。</p> <p>(2) 国際的な研究動向をふまえ、新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野と学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたについて議論、研究する。</p> <p>(3) 学術的国際交流促進の方法について議論・検討し、関係する情報の流通・公開の促進を図り、小委員会としての役割を検討する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：星和彦 (前橋工科大学)</p> <p>幹事：伊藤喜彦 (東海大学)、戸田稯 (金沢工業大学)</p> <p>委員：伊藤重剛 (熊本大学)、伊藤大介 (東海大学)、稲川 直樹 (中部大学)、海老澤模奈人 (東京工芸大学)、大橋竜太 (東京家政学院大学)、加嶋章博 (摂南大学)、加藤耕一 (東京大学)、太記祐一 (福岡大学)、中島智章 (工学院大学)、西田雅嗣 (京都工芸繊維大学)、堀賀貴 (九州大学)、横手義洋 (東京電機大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>『西洋建築史図集』WG</p> <p>現行の『西洋建築史図集』の問題点の洗い出しは終了し、改訂『西洋建築史図集』の構成・内容の検討、及び執筆形態・写真等の取り扱い、執筆予定者の検討も実施した。執筆者主体の WG への改編を検討する。『西洋建築史用語集』の可能性についても平行して検討していく。</p>	
2016 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/rekishis/s5

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	<p>1. シンポジウム「西洋建築史研究の新たな地平-受容と順応-」参加者数 43 名 資料：同上</p> <p>公開のシンポジウムとし、4 名の講演者と 2 名のコメンテーターを迎えて開催した。小委員会委員のみならず、建築学会会員に加え、一般の参加者もあった。当初予定の 4 時間を越えて講演、議論が展開され、日本での美術、庭園、都市など西洋建築史への多様な視点と、今後の展開の可能性、現代的意義が明確となったと思われる。</p>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>シンポジウムを実施したが、(1) に関しては、建築史に限られない若手研究者を中心としたシンポジウムとすることができた。(2) に関しても、講演者、講演内容ともに、今日性や周辺領域にも関するものとなった。建築学会会員に加え多分野の参加者があったことは、テーマ設定の的確さを示しており、開催に意義があった。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 委員会は、メール審議を実施しているものの、2 度の開催であった。上記の目標を考えると、予算、時間の面での制約はあるものの、活性化は今後のか大といえる。とくに、来年度は建築学会大会で研究協議会を主催するので、気をつけて取り組みたい。</p> <p>2. 西洋建築史図集の改訂作業が滞っていることは、反省すべきと考えている。</p>